

しばらくして隣のふすまがそーっと開いた。ひとりの男性がこっちにむかって「どちらからお越しですか？」と声をかけてくる。「実は私たち茨城の剣道の応援団なんです」とのこと。大盛り上がりの隣の宴会場が気になって仕方なかったようだ。実は一回戦でもし奈良に勝っていれば男子の2回戦の相手は茨城。奇遇というか奇縁である。話しによればインターハイで優勝した女子チームは地元秋田に破れ、男子は2回戦で奈良を撃破したとのこと。応援団としては複雑な心境だろうが徳島応援団の実態を確認した後は納得の表情であった。お互いエールを交換して襖を閉める。そこへまたなまはげが2度目の登場である。追加のサービスなのだろうか？今度も包丁と杖を振り回してその存在を鼓舞する。「明日も頑張っ！」と勘違いは続くが、俺たちに明日はない。またまた写真撮影のあとなまはげは隣の宴会場へ移って一暴れ。茨城応援団の拍手に包まれているようだ。と思ったら突然襖が開いて隣の宴会場から再びなまはげの乱入。どんだけ！

時間は10時半を廻っている。7時過ぎに始めたからかれこれ3時間半である。鍋を雑炊に仕立ててもらって食べたし、きりたんぽの串がテーブルに散乱している。座はあいかわらず鬼太郎ネタ（参加者以外には不明）で盛り上がっているが、そろそろメなければならぬ。別の宴会場の客がひとり残らずこっちをのぞいて帰る。その表情は異人種を見る目つきだったという。ラストオーダーを頼んだ後で幹事が最後のお願いをすることに。

「是非ともなまはげさんに見送ってほしい」

「……」

「お願いします」

「、、、実はなまはげはもう衣装を脱いで風呂にはいってるんです」

「そこをなんとか！」

「、、、じゃあ、聞いて来ますね」

ちょっと間があり

「もう一度来るそうです」

「おおう！！（拍手）」

なわけ最後にふたたびなまはげのラストステージを鑑賞。徳島応援団のどんだけ！を印象付けた一夜であった。なまはげさんありがとう。予算はひとり4000円あまり。なまはげショーを4回見たことを勘定に入れればそれほど高くはないだろう。他のメンバーに御礼を言ってタクシーでホテルに帰る。秋田での二日目の夜が更けていく。

次ぎの日は6時半に朝食を食べに降りた。エレベーターで広島のジャージを着た人が乗ってきたので、聞けばこのホテルに事務局があるらしく世話をしているとのこと。レストランも国体関係者でごったがえしていた。それぞれが競技に世話役にと忙しそうだ。もう応援もすんだわれわれふたりだけがのんびりと朝食を食べる。こっちを3時に出る飛行機の便までが残された秋田滞在時間である。

半日くらいあれば、田沢湖、角館付近までは行けそうなので思いきって車を走らせる。ホテルを出てインターに向かう途中に、秋田の国体選手を大勢輩出している秋田南高校の前を通る。アイボリーカラーの外壁がハイカラな新しい校舎だ。こんなところにあっただのか？道中は高速と山あいの国道を走り継ぐ快適なドライブである。巡航速度は高速が100キロ、地道は70キロ。とても走りやすい。ナビの到着予想時間がどんどん早くなっている。1時間半あまりで田沢湖に到着。「日本で一番深い湖田沢湖」それが自分にとっての田沢湖である。小学生の時に勉強した地理の原点のような場所にやってきたのだ。思ったより広くはないが、それでも対岸はまだ朝靄の中に煙っているような感じである。まだ10時前なので観光客もほとんどいない。遊覧船から降りてきた10人ほどのおばちゃんたちが唯一の先客だ。スワン型のペダルボートが1隻づつ浜から湖面に並べられて行く。その一台に乗ってふたりで湖面散歩とシャレ込む。魚がボートについてくる。どれだけ深いのか？は実感できなかったが、朝の湖面の空気は心地よく久し振りに遊園地気分を満喫した。

約30分の滞在で引き返して角館に向かう。途中でカヌー競技場を発見。息子が通う高校からも3人の選手が代表になっているし成人の部にも知り合いが出場している。ひょっとしたら応援できるかも知れない。河原の公園に設けられた駐車場に車をとめると軽快なJポップの曲が会場に流れている。仮設のテントや建物が作られて、艇を置く場所、ウエットスーツを干す場所などがある。テレビでは何度か見たことがあるが実際の競技を間近で見るのは始めてでちょっと興奮する。艇を脇に抱えたウエットスーツ姿の選手がすぐそばを通る。女子でも逞しい。胸と背中には県名が貼ってあるが徳島の名は見つからない。上流から下流にかけてゲートが作られ、そこを正確に早く漕ぎ下るスラロームのコースである。女性アナウンサーが放送している。成年男子の試走が始まって、10番目に徳島代表の長尾選手が登場するらしい。本番は時間の関係で見られないがせめて試走でも応援しようとビデオを構える。次から次ぎへと他県の選手が漕ぎ下りいよいよ徳島のゼッケンが見えた時にはつい力が入る。パドルをうまくあやつりながらゲートをくぐり抜ける勇姿はとてもかっこいい。がんばれ長尾先生。下り終わって岸にあがった長尾さんに応援のあいさつ。嫁とは面識があるらしく喜んでくれた。ちょっと体調がすぐれないとのことだったが上位入賞をめざしてほしいものだ。剣道とカヌーでは会場の雰囲気は全然違うが、わくわくする気分は共通している。たぶんどっちも

選手たちのひたむきさが伝わってくるせいだろう。もうすこし川辺でスラロームを見たかったが時間がなかった。

最後に角館に向かう。観光地らしく結構な人出だ。武家屋敷のあたりを歩く。道は広く大きな木々が屋敷内にあり、一帯が木堀の通りである。人力車が観光客を乗せている。石黒家に入場料300円を払って入る。屋敷の造りや歴史を説明してくれる女性の話を聞きながらビデオをまわし、展示品などを見てまわる。商家とは違い文芸や教養に力を入れていたことがわかる資料だった。この一帯を観光資源化するためのコンセプトがしっかりしているように思う。木堀が続く通りの雰囲気が良い。大きな木が屋敷を占領しているのは暮らしにくいだろうが、観光収入と差引すれば得策なのかも知れない。ひとまわりして比内地鶏の親子丼の昼食。1500円もするから期待してたのに、焼き鳥の余り物を使ったような固いとり肉であまりおいしくなかった。残念。

いよいよ時間も迫ったので飛行場に戻ることに。2時頃にレンタカーを返し、飛行場まで送ってもらう。空港で出会った徳島のジャージ姿の高校生は競泳選手の一団だったと後で判明。板野の相撲部の選手も見かけた。いよいよ秋田ともお別れだ。天気も良かったし、なまはげにも会えたし、観光も楽しめた。成績が伴わなかったのは残念だが、子供達もそれなりに秋田や国体の舞台で吸収することも多かっただろう。長く続く国体の歴史とはいえ、今年のチームは一期一会、たったひとつのチームである。そんなチームの一員としてわか杉国体に乗り込めた息子も人生で唯一かけがえのない一期一会の体験ができたのだ。それ以上のことを望んでも仕方がない。応援団もまた今年のチーム仕立てで仲良く応援ができたのはなによりだった。世話役幹事役のみなさんには感謝するのみである。国体のおかげで風景や人とのすばらしい出会いが体験できたし、なまはげとの一夜の狂躁は記憶と記録にのこる出来事だった。あとは徳島の最下位脱出を願うのみである。

(完)